



【プラスティー】
More to Love Teikyo

TAKE FREE

#017

特集

ON/OFF

シゴトと日常、2つの私

「○○宣言」

休日を作るとしたら。。。?

「趣味追及」

テコンドー

「campus snap」

帝京生のがあったかコーデ

「帝京人」

キャリアサポートセンター長とは?

「スポットをあててみた」

ピタ研ってなに?

CONTENTS #17



特集

『 ON/OFF ～皆の知らないかっこいい私～ 』

『そういえば、シゴトしているときの一面って知らないなあ』

仲良しな友達、サークル仲間、部活の先輩後輩でもシゴトの一面はあまり見慣れないのではないのでしょうか。
——普段とのギャップ、気になりますか？

そこで!

今回は4人の帝京生に
学校生活とシゴトの両立をテーマに、
インタビューをしてきました!



※料理や店の写真はイメージです。

03 **宣言**
総理大臣になったら
〇〇の日作ります宣言

05 **特集**
ON/OFF
～皆の知らないかっこいい私～
カフェ店員/バーテンダー/塾講師
ジャズギタリスト

11 **珍事件**
バイトで起きたエピソードを暴露!

12 **趣味追求**
テコンドー選手に突撃インタビュー

14 **Campus Snap**
帝京生のあったかファッション

18 **帝京人**
キャリアサポートセンター
センター長の学生に今、伝えたいこと

19 **スポット/編集後記**



秦 知花(20)
文学部史学科2年

総理大臣になったら

〇〇の日



をつくります宣言!!

今回の〇〇宣言のテーマは、「私が総理大臣になったら〇〇の日をつくります」ということで、もし自分の好きな休日を作ることができるならどんな祝日をつくりたいか聞いてみました!



深田萌佳(20)東京都出身
文学部社会学科2年



坂本紗瑛子(20)神奈川県出身
教育学部初等教育学科2年



新倉実沙希(19)東京都出身
経済学部経営学科1年



山本将輝(20)石川県出身
法学部法律学科2年



若月優輝(20)
新潟県出身
外国語学部
外国語学科2年



服部朱里(19)神奈川県出身
医療技術学部スポーツ医療学科2年



松浦芹(20)神奈川県出身
教育学部初等教育学科2年



鈴木咲穂(19)茨城県出身
教育学部初等教育学科2年



及川優里菜(20)神奈川県出身
教育学部初等教育学科2年



齊藤翔太(20)静岡県出身
文学部社会学科2年

久保徹朗(19)東京都出身
文学部社会学科2年



米原拓弥(23)東京都出身
経済学部経営学科4年



ON カフェ店員



▲ふんわりとした抹茶ラテ



Interview

Profile
坂本玲奈(22)
文学部
日本文化学科3年

「エネルギーをくれる場所」

坂本さんは、文学部日本文化学科に所属しており、サークルはアカペラサークルのRoomに入っている。また、図書館司書の資格取得に向けた授業も履修している最中だという。そんな彼女に仕事と自分自身についてインタビューをした。まずは普段の自分の性格について何うと、口数は多い方ではなく、積極的に話しかけることもあまり得意ではないそう。そんな彼女がなぜカフェのアルバイトに応募したのか。

カフェのアルバイトを始めたきっかけは、以前働いていたビアガーデンの店長が現在のカフェの店長に異動になることから、今までの働きを買われ、店長の異動先であるカフェで働くことになった。「人と人とのつながりの大切さ」というものを意識していった事柄の一つでもあったという。また、今では店長は変わってしまったが、当時の店長や社員さんとの食事会などにも参加しているという。

次に、アルバイトで気をつけていることについて尋ねてみた。「真面目すぎないことですね(笑)」。笑いながら冗談っぽく言っていた彼女だが、カフェにとっては重要なことだとのこと。「真面目すぎるとお客さんとの会話ができなくなる。カフェの醍醐味ってそこだと思うんです」と坂本さんは語った。

た時ですね。特に抹茶ラテが難しく、意外と知られていないのですが、泡立てる作業がかなり難しく、それが綺麗にふんわり作れた時はかなり気持ちいいです。(隣ページに写真があります)もう一つは、お客様と話している時ですね。特に常連さんとのコミュニケーションは楽しいです。私がいると、ほっとした顔をしてくれるお客様もいたりして(笑)。些細なことかもしれないんですが、それが結構楽しみになっています。」

最後に坂本さんにとってカフェで働くとは何か聞いてみた。「エネルギーをくれる場所です。朝の生活リズムも良くなりますし、常連さんとの会話なども。普通の大学生が得られるもの以上のものを得られるんです。自然と前よりも会話がスムーズにできるようになりました。」

人との出会い、会話の喜びに気付いた彼女は、これからも成長を続けていく。



OFF

「職場は学びの場」



ON
バーテンダー

田代さんは、現在初等教育のボランティアサークルに所属している。青春祭のときには、2年から入ったにも関わらず、人柄を買われ屋台のブースを任された。普段の田代さんの性格は、「興味あるものは全部やってみよう」と、好奇心旺盛な性格をしていると言ふ。広く浅く、時に深く。そうしてハマった趣味がスケートボードで、今も続けているという。

私生活とアルバイトでは、責任感の重みが違う。そのため、アルバイトの時はリーダーとして働いていくために、責任感を感じ気持ちを引き締めて切り替えている。そこでアルバイトをする際に意識していることを伺ってみた。料理が飲み放題になると、メニューが変わり、スピードやご案内するお客様の優先順位も考えなければいけない。スムーズに回転させるため常に頭の中はフル回転していると話してくれた。また、バーテンダーは自分からお客様に話しかけてはいけない決まりがあり、基本聞き手にまわらざる。そのため盛り上げすぎず、お客様に気持ちよく話してもらえるように意識している。

やりがいを感じてみると、お客様から話しかけてもらえるように、そして「また来ます」と言ってもらえることが一番うれしいと話してくれた。そして仕事に真剣に取り組むことで、聴くコミュニケーション力やスムーズにお店を回すための全体を見る目が養われていくと話す。そこがとても勉強になると教えてくれた。

そんな田代さんにとってバーテンダーの仕事とは、「職場は学びの場」である。仕事の中で学びを得、田代さんは日々成長していく。



Profile
田代和也 (19)
経済学部
経営学科2年

Interview

ON
塾講師



OFF

「中学から塾講師をやりたいかった」

教員をめざし、塾講師のアルバイトをする傍ら、サークル・部活を3つ掛け持ちしている秋葉さん。普段の自分について何と、「ノリとアバウト」と言葉に表してくれた。その言葉のように、サークルに限らず、年齢に関係なく交流するよう意識している。友人やサークル仲間とはカラオケに行くことも多く、アルバイトや仕事の息抜きにもなると話してくれた。

そんなノリのよい一面がある一方、塾講師として生徒と真剣に向き合う一面も持っている。

高校受験を機に、教員になることを決意した秋葉さんは、現場に入る前に生徒に教える経験を積むため、塾講師のアルバイトをすることに決めた。

知人にアルバイト先を紹介され、大学1年生からアルバイトを始め、研修期間を経て現在は本格的に指導を行っている。

アルバイトをする上で意識していることは、普段友達と接するような対等な関係ではなく、講師として生徒の勉強へのモチベーションを維持させることを意識しながら接することだ。

「中学生のノリに合わせたり、相手の顔色をうかがったりして、こういう話がダメなんだとか、この話は笑ってくれ



Interview



Profile
秋葉柊汰 (19)
文学部
日本文化学科2年

「進め方のメニューがあるんですよ。公立の生徒もいれば、私立の生徒もいて、初めての生徒だと限られた時間の中で相手の様子や性格を把握しなければいけない。また、メニューも決まりがある中で、どう進めていくかわからないときもある。でも、それもちょうど守っていかないと、いけないというのが難しいと思いましたがね。」

生徒のことを考え、本気で向き合っている。教員という将来の夢に向け、進み続けている。



OFF

「私にとってジャズとは、世界と繋がるためのツールです。ジャズは今や、世界中で演奏される音楽です。そういう意味で、ジャズは世界共通言語と言えますね。そのジャズを通して、世界中の人と交流したいです。そのためにも、もっとジャズを突き詰めたいです。」

そう語るの、現在内定先にインターンとして働く一方、ジャズギタリスト、神主、伝統文化継承者として活動している島津さんである。

そんな島津さんがギターを始めたキッカケは、偶然見かけた楽器屋のギターに一目惚れをし、そのままギターを購入したのだ。ここまでではよくありそうな話だが、島津さんはなんと、その翌日に大学のジャズ研究部に入学したという。しかも、入学した直後に翌月の学園祭に出演も決定。

当時島津さんはギターの持ち方すらよく分からなかった。そこで、神主でありながらブルースギタリストとしても活動している父親に指導を受けながら猛練習をしたそうだ。その甲斐あって、無事初めてのライブを終えることができた。

それ以降「ジャズをもっと学びたい」と思い、ジャズの道を進むことを決めた。始めて2年でプロの前座を務め、今でも休日にジャズバーのセッションやレッスンに参加し、腕を磨いている。

島津さんの学生生活は、「とにかく活動的だった」と振り返っている。

本場のジャズに触れるためアメリカへ行き、老舗ジャズバーへ飛び入り。日本のジャズバーのセッションにも参加したり、東日本大震災被災地の高校で演奏したりするなど、積極的に音楽活動をしてきたと語ってくれた。

一方で、法学部所属である島津さんは法学を学び、内定先の仕事にも、大学で学んだ法律の知識が実学として活かしていると語る。

「ジャズは交流のツール」



OFF



ON ジャズギタリスト



Profile
島津久崇(24)
法学部
法律学科4年

バイト先での珍事件

バイトでも学校でも、予想外の出来事ってありますよね。
そこで今回特別に、バイト先で起きた衝撃? クスツと笑える? そんなエピソードを暴露してもらっちゃいました!

バイト先に盗撮犯?!



証言者さん接客業

あれは大学二年の頃かな、とある派遣事務所に登録してたんです。
それで、派遣会社に行つてどんな仕事があるか、仕事内容を聞きに行ったんです。
そこで、社員さんに「これどう?」と勧められた仕事がある祭りの仕事だったので、やってみよう! と思いついて、仕事が始まりました。

江戸時代を舞台にした祭りの仕事で、私は街の屋台の仕事を任せられました。要は町人ですね。町人になるにはどうすればいいんだ... って悩んで、悩んだ末に社員さんに聞いてみました。
「こうやるんだよ」って教えてもらったのが、鼻の下をこするしぐさをしながら、「てやんでい!」と言うものだったんです。ちなみにポイントが語尾を上げるとこですよ。

それから、家では当日に向けて「てやんでい!」と威勢よくセリフを言う練習や、町人の歩き方、口調を調べました。
そして迎えた当日、少し緊張していたので、毎年その祭りを経験している現地の社員さんに確認しに行つたんですよ。「てやんでい!」ってやるんですよ! っ

そしたら社員さんからどんな反応が返ってきたかと思いませんか? 「は? ふざけてるの?」と冷たくあしらわれましたよ。
いやーショックでしたわ。祭りが始まってみると、周りで、見てもみんな普通にしてるんですよ。
結果恥をかいただけでした(笑)もうここでは働きたくない! とその時は思いましたね(笑)

私がコンビニエンスストアで働いていた頃のお話です。朝の通学ラッシュの時間にバイトをしており、女子高生やサラリーマンで賑わっていました。
その時品出しをしていた私は、レジ係を頼まれレジカウンターへ向かいました。
レジに向かう途中、お客様の列の近くを通らなければならなかったのですが、『明らかにスマホを使うには低すぎる位置でスマホを使っていた』お客様がいました。その位置は、前に並んでいる女子高生の丁度太ももの位置であり、近くを通る時に横目でちらっと確認してみると、カメラのマークが付いていました。

盗撮は現行犯じゃないと何もできないと聞いたことがあったのと、レジには他の先輩が入ってくれたので、私はそのお客様に勇気を振り絞って「その位置でスマホいじる必要がありますか?」と聞きました。
すると店内に響くような声で「なんだよ! 撮ってねーよ!」と言われ、胸ぐらを掴まれました。
何も言っていないのにボロを出してきたので、思わず笑いそうになりましたよ(笑)

その後、他のお客様の協力や、警察が来てくださり、そのお客様は連行されていきました。後から聞いた話ですが、ベルト、靴、鞆に隠しカメラが仕込まれていたそうです。

生きているとゼツタイ、キムン♥となるような異性に会えることあると思うのですが、絶対に勝手に撮って楽しむことだけは、みなさん、やめましょうね。

NO Image

証言者Sさん接客業

そう、それはさかのぼる事うんヶ月前...。その頃はコンビニで早番と中番をやっていたんですね。
それで、ある日の中番の時とてもカワイイお客様に出会ったんです。レジを担当していた私は、そのお客様を見て疲れも吹っ飛んでしまいました!
レジにいらっしやっただが、キャップ帽子が黄色、持っているスマホケースも黄色、決めてに、肩にビ〇〇〇〇のぬいぐるみをつけているじゃありませんか!!
癒されましたね! いつも以上に笑顔で接客してました。
「肩に乗せているそのキャラクターお好きなんですか?」と伺ってみると、答えが「NO」だったので、そこだけ気になります(笑)言葉が伝わらなかつたんですかね愛
早番の時にもたまにお見かけしたのですが、やはり疲れが吹っ飛びましたね。会計終わりに「ありがとう!」も言っていただけで、残りの時間も頑張るか! とやる気が出ましたね。

江戸っ子になりきる?!

証言者Hさん派遣会社



テコンドー



平井凌(20)静岡県出身
文学部史学科3年

バシッという強い蹴りが炸裂し大きな音が響く。

テコンドーとは

テコンドーは1955年4月に、当時韓国の陸軍少将であった故・崔泓熙(チェ・ホンヒ)氏(1918年11月9日〜2002年6月15日)によって唐手(空手)や朝鮮古武道(テッキョン)を参考にしつつ、研究開発され体系化された近代武道です。

テコンドーは、東洋の倫理道徳を精神的根幹とし、足技1200種、手技2000種、計3200種の技からなる武道です。攻撃と防御の方法には軍隊戦術を採択し、現代科学の原理をもって人体の持ち得る最大のパワーを出せるように体系化されています。(日本国際テコンドー連盟HPより)

—まずテコンドーをはじめたきっかけは？

もともと高校では柔道をしていたんですけど、どうせだったら今までやったことのないものをやりたいと思ってクラブ紹介の冊子を見てテコンドーをしてみようと思いました。球技は苦手なので。

—そうだったんですね。テコンドーと柔道との違いはなんですか？

人と対するのは似ているのですが、間合いが違うし蹴りの技も多いですね。あとは例えば空手って肉體強化を目的にしている力強い動きをするんですが、テコンドーは人間の自然な動きから技を練り出すんですね。歩く動作の延長線上で蹴りを出すといったような。そういう部分が違うと思います。

—平井さんは社会人も含む大会に出場しているとか。

—ちょうどこの前の11月27日の日曜日に町田市で行われた大会で2位でした。



テコンドーで培った柔軟性。



—え！おめでとうございます！

—ありがとうございます。優勝した人がこの同好会に所属している中国人留学生で。決勝で当たって負けてしまって。悔しかったです。

—同じ同好会の人に負けるというのは悔しいですね。日々の練習はどんなことをしているのですか？

—同好会としては週3回練習があって自由に来てる自由な感じがします。筋トレをしたり蹴りの練習をしたり。柔軟もしておかげで体が柔らかくなりました。

—練習で心がけていることはありますか？

—他の人よりも練習をすることです。週3回の練習のうち1回は道場に行って師範に見てもらったのですが、その師範が「練習をすればするほど余裕が持てるし自信がつく」と言っていて。実際に大会で強い人に当たってもこの人よりは練習しているし、と余裕を持って試合に臨めます。ちなみに師範の卯月さんは、

—帝京大学のOBでこのテコンドー同好会を作った人です。テコンドー界で活躍しているすごい人なんですよ。

—テコンドーを続けていられるのは何か理由が？

—楽しいからですかね。楽しいから続けて勝つたからもっと楽しくなってます。できなかった技ができるようになるのも理由ですね。

—最後にテコンドーに興味を持っている人にコメントを！

—テコンドーは自由な感じで気軽にやれます。それこそフィットネス感覚で女性にお勧めです。ほかの武道に比べてマイナーなので優勝できる可能性もあります。好奇心だけで入った自分もここまでこれたので。あとはブルース・リーやジャッキー・チェンもテコンドー出身なので、その人たちに憧れがある人にもお勧めです。

—ありがとうございます！



テコンドー同好会の部室。横にある板や折れたバットは文化祭で折る演技で使ったもの。



橋本周汰郎(20)富山県出身
文学部社会学科2年



楡井千通(19)東京都出身
文学部心理学科2年



池田花(18)東京都出身
文学部心理学科1年



額賀風花(21)茨城県出身
外国学部外国語学科3年



Teikyo University Photogallery

Snap!

☒ Snap 001

朴ハンウル(22)韓国出身
文学部日本文化学科2年



山縣尚史(21)岡山県出身
文学部社会学科3年



行徳美季(19)神奈川県出身
教育学部初等教育学科1年



川地翔(21)東京都出身
教育学部初等教育学科4年
長谷川晃大(21)東京都出身
教育学部初等教育学科4年



鎌田美保(20)千葉県出身
文学部社会学科2年



坂田雅恵(19)福岡県出身
外国語学部外国語学科1年



関口結希乃(20)埼玉県出身
経済学部経済学科3年



山越沙里奈(19)埼玉県出身
教育学部初等教育学科1年



金山明香里(19)鳥取県出身
短期大学現代ビジネス学科1年



渡邊萌々子(20)静岡県出身
文学部史学科2年



橋本沙央梨(20)静岡県出身
医療技術学部スポーツ医療学科2年



杉本夏洋(20)神奈川県出身
法学部法律学科2年



稲尾拓也(19)千葉県出身
経済学部経済学科2年



初井充希(20)埼玉県出身
経済学部経済学科2年

スポットライトをあててみた。

#2 ピタ研~creator~



ピタゴラ装置を作る際に参考にしている本



作成したピタゴラ装置

第2回となる今回は、「ピタ研 creator」という名前のサークル。サークル名に「研」がついているという事は、何かを研究するサークル？といったどんなサークルなのか、取材してみました！

このサークルの活動内容を教えてください。

ピタ研…私たちは、ピタゴラ装置と呼ばれる身の回りの物を利用したからくり装置を作るサークルです。普段は、毎週火曜日と木曜日の18時からクラブ棟6階のサークルの部屋で活動しており、青春祭の時に展示を行っています。

夏休み期間中には、大学周辺の学童にお願いして、学童に通う子供たちと一緒にピタゴラ装置を作るボランティア

活動も数年前から行っています。

「からくり装置を作るって大変そうですが、どのように作っているんですか？」

ピタ研…ピタゴラ装置を紹介する本とDVDがあり、それを参考にして作ることが多いです。あとは材料をいくつか組み合わせて、実際にいじっているときの思いつきを元に作っています。ただ、本などで紹介されている装置は、物理学を元にしたシミュレーションを行って作られていくのですが、私たちはそれができないので想定通りに行かず、何回も微調整をしながら作っています。

「やはり大変な面もあるんですね。そういった中で活動して嬉しかったこと、楽しかったことはありますか？」

ピタ研…嬉しかったことは、青春祭の時に展示する装置を実際に動かした時に、お客さんや小さな子が喜んでくれたときです。

楽しいと感じることは、やっぱりピタゴラ装置が出来上がったときに達成感を感じた時ですね。あと何気ないことですが、趣味や学部学科がバラバラなメンバーが集まっているので、会話も楽しいです！

「最後にこのサークルに興味を持った方に向けてメッセージをお願いします。」

ピタ研…ピタゴラ装置を作ることに難しい印象を持つかもしれませんが、図画工作の延長で作ることが出来るものだと思います。気軽なサークルなのでぜひ一度顔を出してみてください！ものづくりが好きな人、大歓迎です！

帝京人

キャリアサポートセンター
センター長
田口 仁 先生



百貨店のそごう外商から転身し、帝京大学の入試広報を経て、現在八王子キャンパス、キャリアサポートセンターのセンター長を務める田口仁先生。学生からの人望も厚い、人気のある講師でもある田口先生にインタビューを行った。

Q: 田口先生はなにをめぐって仕事をしているんですか。

A: 私がめぐっていることは、「学生の成長」です。キャリアサポートセンターとしては、成長を通じて、「学生の希望する進路実現100%」です。なかなか難しいですけどね。

もちろん希望する上場企業やよく知っている企業に就職することもうれいですが、何より「自分自身が納得して進路選択できているか」がポイントです。それがたとえ「家で家事をして一生暮らしたいんです！」と言われたとしても、本気で応援しますよ(笑)。

ただ、それには条件があって、両親が納得しているかです。それが本気であれば、それだけで満足せず、料理教室を勧めるとか、自分自身が努力する範囲を示すことを意識しています。

あとは、自分の家族に誇れる仕事をしたいですね！子供たちが将来のことで悩んだときに、先に生きる「先人」として、社会で輝いている自分の姿を見せたいですね！社会で働くことは楽しいんだと思っておりますから！

Q: 田口先生にとってこの仕事のやりがいは何でしょうか。

A: 「ありがと」と言われることは、この仕事をしていると結構あって、何よりうれいんですけど(笑)。でも、それよりも学生の成長のために、どこの大学の誰もやることがないことをやりたい！そんな強い気持ちがいにつながっているんだと思います。

「学生の成長のために」なんてきれいごと聞かせるかもしれませんが、でもそれをやり続けること、やり続けることが重要だと思っていて、それが「学生目線」につながるのかもしれないですね。

「田口先生はキャリアサポートセンター以外に、講師もつとめている。そこでこんな質問を投げかけてみた。」

Q: 教師としてより近い立場で、学生に対してどんなことをしていましたか。

A: 特に意識していることは3つですね。「カウンセリング」「ティーチング」「コーチング」を意識的に組み合わせることです。

私が担当しているキャリア教育科目では、将来のことを考えて履修する学生も多く、この3つを意識して、授業を通じて学校生活や就職活動に寄り添うようにしています。

「今何を考えているのか？何に不安を感じているのか？」学生の今に向き合うように心掛けています。あと、読書離れとか言われますが、「学ぶ」の語源は「真似る」、さらに「学ぶ」ことは「人と「本」からしか学べない」という教えに共感しているのですね。時にはコーチングになってしまってもいいかもしれませんが、本の書評を授業内で伝え、学生たちにも読書を指導しますね。

また、生きている「人」であれば、直接会って話を聞くことはできませんが、過去の人は「本」からしか学べませんからね。(笑)

Q: 学生に、今、伝えたいことはありますか。

A: これも本からの教えで共感していることですが、日常の中で「考える」わかる↓できるようになる、できることが楽しくなってくれば、自分なりの成功の方程式をつくってほしいと思います。

そのために、学生生活でいろんな経験をして欲しいです。いろいろな人から学ぶ経験から、考える習慣が身につけば、「知っている」ことが増える。「興味がある」ことも増えてくる。最後は「自分の感性」を大切にしてほしいですね！

「田口先生、ありがとありがとうございました。」

Check! 田口先生の仕事アイテム

▼ビジネス Eight (名刺管理アプリ)

▼授業 SNS・LINE

「つながり」を大切にするため、アプリを活用!

編集後記

ご意見ご感想はアドレスへ! kanpan.company@gmail.com

バックナンバーをパソコンからでも読むことが出来ます!

Chief Editor
Ryotaro matsukawa
今年のクリスマスはアルバイトに消化されます。さびしさよりも予算への恐怖が勝っています。

Photographer
Marika Ito
わいは銭がババじゃ〜!!! あ、今回で引退ですが、多くの帝京の人に感謝です!

Designer
Yoshie Sakai
米粒ついたまま炊飯器を2週間放置したら、中に5cm大のカビがいました。あまりもみたくらい可愛かったので捨てました。

Designer
Kanami Miyaguchi
久しぶりに幼馴染みに会ったらみんな綺麗になって一緒に写真撮ったことを後悔しています。あ、今号で最後です。今までありがとうございました。

Designer
Miho kobayashi
久しぶりに前髪を切ったら予想以上に切られました。

Cover Girl
Chihana Shin
文学部史学科 2年 サークル: Rollipop サークル twitter: @Rollipop_info

#017 4

発行年月：2017年11月 発行：+T編集部 〒192-0395 東京都八王子市大塚359 E-mail：kanpan.company@gmail.com
協力：帝京大学八王子キャンパス広報グループ E-mail：h_kohno@teikyuo-u.ac.jp

体育施設棟地下食堂

営業時間11:00～14:00

「木のぬくもりを感じる台所」をコンセプトに掲げ、学生が好むおしゃやかなカフェのような空間。新たに女子学生向けのメニューも充実させ、日替わりうどんや、日替わりの一品料理が楽しめる「プレートランチ」も採用。

RENEWAL

NOODLE

Today's SPECIAL

SET MEAL

BOWLS

